

●メリー・ポピンズ リターンズ

Mary Poppins Returns

1964年公開のディズニー映画「メリー・ポピンズ」は、傘をさした主人公の女性が空から舞い降りるシーンで有名だが、その20年後を描いた続編が、2018年(日本では2019年)に公開された。映画の様々なシーンの音楽をセレクトしたメドレーである。使用されている楽曲は、①いとしのロンドンの空、②序曲、③ひっくりカメ、④小さな火を灯せ、⑤幸せのありがた、⑥メリー・ポピンズがやってきた、⑦エンドクレジット。どれも名曲ばかり！。2019年出版。

M. シャイマン (編曲:鈴木英史)

Marc Shaiman (b.1959:アメリカ)

●マドゥローダム

Madurodam - Miniature Suite -

ヨハン・デメイ

Johan de Meij (b.1953:オランダ)

第1曲	起床ラッパ	第5曲	間奏曲(夜想曲)
第2曲	おもちゃの兵隊	第6曲	ウエステルケルク教会
第3曲	議事堂	第7曲	ムイデルソルト城
第4曲	小さな風車	第8曲	グランドフィナーレ

デメイは、吹奏楽、金管バンドなどの分野で作曲・編曲を数多く手掛けており、日本でも人気の高い作曲家である。タイトル「マドゥローダム」は、オランダにあるテーマパークの名前で、同国の観光名所や主要建造物が1/25サイズで再現されたミニチュアの街である。この街の印象をデメイは8曲構成の小組曲で描いた。各曲は短いながらもよく表現されており、元の建造物の風格さえも感じられる曲が続く。なお、夜になると屋内に灯りがともり、ミニチュアの街は夜景で彩られるという。終曲はそんな華やかな光景かも知れない。1997年作曲。

●ワカン・タンカ (大いなる神秘) ～ラコタ族の愛の歌と子守歌による～ 平川忠一郎

*Wakan Tanka - Lacota Love Song & Lullaby**Tadaichiro Hirakawa (日本)*

ジョイント名誉顧問、平川先生の作品です。長年、国語科教員として千葉県公立高校で勤務され、吹奏楽指導の傍ら、コントラバス奏者としても活躍されました。定年後は趣味で作曲・編曲活動を行っています。今回も新曲披露。ご本人による解説を紹介いたします(未出版)。

「ワカン・タンカ」とは、ラコタ族(日本ではスー族として知られる)にとっての創造主、宇宙の真理、大いなる神秘。ここではラコタ族の「愛の歌」と「子守歌」を使って曲にしました。フルートソロによる「愛の歌」に始まり、リズムを変え、グロックンとマリンバの二重奏を挟み「子守歌」へと移っていく。そして二曲が重なり静かに消えていきます。

●古都 - 四季の彩り

Four Seasons of Japan

八木澤教司

Satoshi Yagisawa (b.1975:日本)

八木澤教司さんは市川市在住の人気作曲家で、ジョイント参加各校の顧問とも親交があり、この演奏会においては、2003年の第13回より毎年、1年バンドで八木澤作品を演奏している。海外での人気も高く、世界を飛び回る八木澤さんであるが、今回の練習期間にも多忙な仕事の合間に練習会場にお越しになり、作曲者本人より直接指導を頂くという貴重な機会を得た。

本作はハワイ州にある高校の委嘱作。同校の先生や生徒たちは、日本の文化や風景、吹奏楽に興味を持っているとのこと。海外の学校は秋から新年度が始まることが多く、本作でも[秋:もみじの道]-[冬:雪山]-[春:桜花]-[夏:花火]の順番で、外国人から見た日本の四季という視点で描かれた。外国人に日本に親しみをもちたいという気持ちと、海外と日本のバンドが交流を深めるきっかけになればという願いを込めて作曲された。2018年作曲。

●ラプソディック・セレブレーション

Rhapsodic Celebration

ロバート・シェルドン

Robert Sheldon (b.1954:アメリカ)

シェルドンの作風は「急」-「緩」-「急」(ABA形式)で展開され、中間部に美しいメロディを持つものが多い。また、比較的簡単な技術で演奏可能で、高い演奏効果も得られる中級者向けの曲が多いのも特徴である。しかし本作は技術的に難しく上級者向け。それでも、曲冒頭の壮大なテーマとファンファーレ、快活な前半部、穏やかで美しい中間部、再び速度を取り戻して結末へと突き進む後半部など、シェルドン作品の魅力が凝縮された曲である。2011年出版。

●ラコッツィ行進曲 (ハンガリー行進曲)

Hungarian March "Rakoczy March"

H. ベルリオーズ (編曲:A.リード)

Hector Berlioz (1803-1869:フランス)

ドイツの詩人ゲーテが書いた戯曲「ファウスト」に基づき、1846年にベルリオーズが劇的物語「ファウストの劫罰」を作曲した。本作はその第1幕で使われる劇中曲で、ハンガリー国内で人気が高いラコッツィ行進曲を引用したものである。ところが、原作の戯曲「ファウスト」にはハンガリーの場面は存在せず、この曲を気に入り、どうしても使いたかったベルリオーズは、自ら手がけていた「ファウストの劫罰」の舞台をハンガリーに変えたとのこと。

●ライド

Ride

サミュエル・ヘイゾ

Samuel R.Hazo (b.1966:アメリカ)

アメリカの作曲家育成に尽力しているJ. スタンプへの感謝を込めて作曲された曲。2002年のある夜、スタンプは自分が主催する作曲フォーラムに参加していた、ヘイゾら当時の若手作曲家たちを自宅での夕食に招待した。彼らを車に乗せて自宅までドライブしながら、景気づけにギアをトップに入れて、フルスピードで田舎道を走り抜けた。疾走する快感、美しい景色、スタンプへの感謝の気持ちなどから、ヘイゾは頭の中でこの曲を完成させ、曲のタイトルもその際に付けたという。演奏時間3分と比較的短い曲だが、実に60回以上の変拍子が現れる高難度ぶりである。途中にはジャジーな部分も現れてハッとさせられる。2002年作曲。

●ミス・サイゴン

Miss Saigon a Symphonic Portrait

C.M.シェーンベルク (編曲:J.デメイ)

C.M.Schönberg (b.1944:フランス)

日本でも大人気のミュージカル「ミス・サイゴン」は、ベトナム戦争末期の1975年、陥落寸前のサイゴン[南ベトナム首都]を舞台に、ベトナム人少女キムと、米兵クリスの恋物語を描いたものである。しかしサイゴン陥落による大混乱で2人は引き裂かれ、悲しい運命をたどる。1989年にロンドンで初演され、1991年:アメリカ、1992年:日本にも上陸して熱狂的に迎えられた。日本では何度も再演され、2020年夏にも上演が決定しており話題となっている。

今回演奏する吹奏楽版はデメイ編曲のもので、ミュージカル音楽から6つのシーンが抜粋されている。どの曲も大変素晴らしく、物語を知らなくても十分に楽しめるメドレーである。

(I) *Overture-Saigon, April 1, 1975*

序曲 - サイゴン1975年4月1日

(II) *The Movie in My Mind*

我が心の夢

(III) *The Morning of the Dragon*

サイゴン陥落

(IV) *Please*

プリーズ

(V) *Appassionato*

アパシオナート(情熱的に)

邦題は

(VI) *I Still Believe*

今も信じてるわ

自信ありません